

TPZ-D563E TPZ-D563BTE

UHF デジタル簡易無線電話装置 (登録局)

取扱説明書

Hyper Demitoss

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。

本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。

TPZ-D563BTE は Bluetooth[®]搭載モデルです。

本無線機を使用する際には、必ず総務省の総合通信局に無線局の登録申請をおこない、登録状の交付を受けたあとに使用してください。

無線局の登録申請をおこなわずに使用すると、不法無線局となり、1年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処されることとなりますのでご注意ください。

無線局の登録申請については、登録申請書式を一式同梱しています。

登録申請書の書き方および申請方法については、下記 URL、または QR コードから弊社ウェブサイトの「無線局の登録申請について」のページをご覧ください、登録申請してください。



<https://www.kenwood.com/jp/products/communications/hpdt/touroku.html>



目次

安全上のご注意	4
ご使用上のご注意	7
ご使用前に	8
Bluetooth® 機能に関する表示 (TPZ-D563BTEのみ)	8
Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意	8
防塵 / 防水性能について	8
FOSS ライセンス	9
本機の付属品	10
バッテリーパックの取り扱い	10
バッテリーパックの取り付け	10
バッテリーパックの取り外し	11
バッテリーパックの充電	12
接続端子の清掃	13
オプション機器の接続 (別売品)	14
半挿しエラー警告	14
ストラップの取り付け	14
アンテナの取り付け	15
ベルトフックの取り付け	15
各部の名称と機能	16
操作キー / ツマミ	16
表示部	18
操作のしかた	20
操作説明について	20
通話する	20
通話するときのアドバイス	21
グループで通話する	22
ユーザーコードを設定する	22
秘話機能で通話する	23
秘話鍵コードを設定する	23
秘話機能を使用する	24
Bluetooth® 機器を使って通信する (TPZ-D563BTEのみ)	25
Bluetooth 機器とペアリングする	25
オートチャンネルセレクト (ACS) 機能を使って検索する	27
ユーザーコードを設定する	27
オートチャンネルセレクト機能種別選択	28
オートチャンネルセレクト (ACS) 機能を使う	28
グループ ACS 機能を使う	29
デュアルグループ ACS 機能を使う	30
その他の基本機能	31
はっきり聞き取りモード	31
キーロック機能	32
チャンネルスキャン機能	32
スキャン対象	33

バックライト機能.....	33
VOX 機能.....	33
VOX レベル(マイク感度)設定.....	34
VOX 遅延時間設定.....	35
送信出力切替機能.....	35
セカンド PTT チャンネル.....	36
無線機情報モード.....	37
全初期化モード.....	37
SPP モード (TPZ-D563BTEのみ).....	38
ラジオモードセレクション機能.....	38
メニューモードについて.....	39
メニューモードへの入り方の操作方法.....	39
メニューモードの操作方法.....	40
メニューモード機能一覧.....	40
拡張メニューモード機能一覧.....	43
その他.....	50
MCP-10B について.....	50
基本フロー.....	50
MCP-10B を使ってできること.....	50
故障かな?と思ったら.....	51
保証とアフターサービス(よくお読みください).....	53
オプション一覧.....	54
仕様.....	55
電波法に関するご注意.....	56

- メニューモードおよび拡張メニューモードの機能一覧の項目については、各メニューモードの機能一覧のページを参照ください。

説明上の注釈表記について



このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。






このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

- ◆ 販売店にて機能や設定を変更している場合があります。






安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

-  **危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
-  **警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
-  **注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



	禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
	分解してはいけないことを示す記号です。
	水が掛かる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

免責事項について

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。


危険


使用環境・条件


-  引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリンなどの可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。
-  運転しながら無線機を操作（通信）するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作（通信）してください。


充電池（バッテリーパック）の取り扱いについて

充電池は下記のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。


-  充電池を電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高压容器に入れたりしないでください。


 充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。

 指定以外の充電器では充電しないでください。


 無線機以外の機器に取り付けしないでください。


 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解したりしないでください。

 濡れた無線機と電池を充電しないでください。火災や感電の原因となります。

 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。


充電電池から内部の液体などが漏れている場合は、直ちに使用をやめて、下記のことをお守りください。


 充電電池内部の液体が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。


 充電電池内部の液体が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。


警告


使用方法について


 オプション機器は指定された製品以外を使用しないでください。指定機器以外を使用すると誤動作や故障の原因になります。

 エアバック装置の近くに無線機を置かないでください。エアバック装置が作動したときなど装置が体に当たってけがをすることがあります。


 機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカー・マイクロホンなどのケーブルを首に掛けないでください。けがの原因となります。


 無線機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・やけど・感電・故障の原因となります。


 アンテナやストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当たってけがを負わせたり、ものに当たって装置が破損したりすることがあります。

 アンテナを誤って目にささないようご注意ください。







 アンテナ端子に触れているときに送信しないでください。高周波やけだの原因となります。

 ネックストラップを使用している場合、ネックストラップがドアや機械などに挟まれないように注意してください。けがの原因となります。

 ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。








 落下などにより破損した部品には直接触らないでください。けがの原因となります。

安全上のご注意



-  高温になる場所(火のそば、暖房機のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内ヒーターの吹き出し口など)で使用、保管、放置しないでください。火災、やけど、けがの原因となります。
-  本機の付属品や、本機から取り外したものを幼児、子供の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
-  煙が出たら、やけどに注意してすぐに電源を切り、電池を外し、充電中は電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
-  内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損したりした場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがしたりするなどの異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・やけど・感電・故障の原因となります。
-  雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源を切り、充電中は電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。
-  無線機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。










⚠注意

使用環境・条件

-  電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
-  空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認したうえでご使用ください。
-  本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。
-  テレビやラジオ、パソコンの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
-  調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
-  結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
-  マイクの開口部やスピーカーグリルに水が入ると、音声レベルが不安定になったり歪んだりすることがあります。無線機を操作する前に、無線機を軽く振って、スピーカーやマイクから水を取り除いてください。

使用方法について

-  ベルトフックに指をはさまないようにご注意ください。
-  スピーカー/マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

-  乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用したときに静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。
 -  長期間使わないときやお手入れの際は、安全のため、電源を切り、電池を外してください。
 -  イヤホンを使用するときは、音量を上げすぎないでください。聴覚障害の原因となることがあります。
 -  スピーカーマイクロホンなどを無線機に接続している場合は、音量を下げてください。モニター機能を使用するときの音量に注意してください。
 -  バッテリーパック接続端子の清掃には、ウェットティッシュは使用しないでください。ウェットティッシュを使用して清掃すると接触不良の原因となる場合があります。
接続端子の清掃には、乾いた綿棒を使うか、綿棒などに無水エタノール(無水アルコール)を少量含ませて、端子が変形しないようにやさしく拭いてください。
無水エタノール(無水アルコール)は薬局・薬店で市販されています。
 -  バッテリーパック接続端子以外の外観などで汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジン、アルコールは使用しないでください。
 -  無線機は、充電動作中にバッテリーパックの温度が高くなる場合があります。バッテリーパックを交換するときは、十分気を付けて取り外してください。
 -  無線機は、長時間、送信のために使用される場合、本体の金属部分が熱くなるので、バッテリーパックを交換するときなどは、金属部分には手を触れないでください。
-  ◆ 充電器など別売りの外部機器使用時の注意については使用する機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご使用上のご注意

- 施設の管理などにより、無線機の使用が禁止されているところでは、本機を使用しないでください。
- 本機を複数で使用する場合、近距離(約10m以内)で同時に通話しないでください。異なるチャンネル同士であっても、電波妨害が発生することがあります。
- 通話のできる距離は地形や環境(天候や建物などの障害物)によって短くなる場合があります。そのようなときは、少し場所を移動して運用してください。
- 通話のできる距離の目安は下記のとおりです。建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
※送信出力5W出力時
・ 建物が林立する市街地: 約0.5~1km
・ 見通しの良い郊外: 約1~4km
- 本製品は抗菌・抗ウイルスのセルフイール[®]を加工済です。セルフイール[®]は二チリンケミカル株式会社の登録商標です。

ご使用の前に

Bluetooth® 機能に関する表示 (TPZ-D563BTEのみ)

本機背面に貼られているラベルに記載の、Bluetooth 機能に関する表示について説明します。

2.4	2.4 GHz 帯を使用する無線設備を表します。	2.4FH1 ■■■■
FH	変調方式を表します (FHSS: 周波数ホッピング・スペクトラム拡散方式)。	
1	想定干渉距離を表します (10 m 以下)。	
---	全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア局の帯域を回避可能であることを意味します。	

Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意

本機の Bluetooth 機能を使用するときは、下記の内容についてご注意ください。

- Bluetooth に使用される 2.4 GHz 帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア局が運用されています。

本機の Bluetooth 機能を使用する場合は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、下記の事項に注意してください。

- 本機の Bluetooth 機能をオンする前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、2.4 GHz 帯のアマチュア局など (以降「他の無線局」という) が運用されていないことをご確認ください。
- 万一、本機の Bluetooth 機能により「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変更するか、本機の Bluetooth 機能をオフにすうえで、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターへご連絡いただき、混信回避の処置についてご相談ください。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。株式会社 JVCケンウッドは使用許諾のもとでこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

防塵 / 防水性能について

本機はオプション接続端子の防水キャップを、隙間のないように正しく取り付けられた状態で弊社指定のバッテリーパック (KNB-75LA/ KNB-76L) を装着することにより、IPX8^{*1}の防水性能と、IP6X^{*2}の防塵性能を有しています。

- ※ 1 IPX8 とは、常温で水道水、かつ静水の水深 1 m のところに無線機を静かに沈め、2 時間放置後、取り出したときに無線機としての機能を有することを意味します。
- ※ 2 IP6X とは、保護度合いを指し、直径 75 μ m 以下の塵埃 (じんあい) が入った装置に無線機を 8 時間入れてかくはんさせ、取り出したときに無線機の内部に塵埃が侵入しない機能を有することを意味します。
- 本製品は設計段階において該当する防塵 / 防水性能の試験をおこないその性能を確認しておりますが、実際のご使用にあたって、すべての状況で防塵 / 防水性能を保証するものではありません。お客様の取り扱いの不備による故障と認められたときは、保証の対象外となりますのでご了承ください。

ご使用の前に

- 本機の防水性能は真水環境にてのみ性能を保証しております。塩水が掛かる環境でのご使用は無線機の腐食の原因になり、防水性能の保証はできません。
- 水中での使用（各種操作キーの押下など）は IPX8 の保証対象外となります。
- ナット付きのオプションを使用する場合は、プラグを確実に取り付けてからナットで固定してください。また、取り付ける際には、微細なゴミ（微細な繊維、髪の毛、砂など）をはさんでいないか、ご確認ください。
- 石鹸水、洗剤、調味料、ジュース、海水、油など水道水以外のものを掛けたり、浸けたりしないでください。また、高温のお湯に浸けたり、掛けたりしないでください。
- 本機の汚れを落とす際は、水に浸けたり、蛇口からの水や湯を直接当てたりしないでください。
- 本機が濡れているときは防水キャップを開けないでください。
- オプションを使用しない場合は防水キャップをしっかり閉じてください。
- オプション自体の防塵/防水性能は各オプション製品により異なります。
- 充電台や AC アダプターは防塵/防水仕様ではありません。本機が濡れている状態では使用しないでください。
- 本機に衝撃を与えた場合は、防塵/防水性能に影響を与える場合があります。

音声圧縮（符号化）方式について

米国 DVSI 社の開発した AMBE (Advanced Multi-Band Excitation) 方式を採用し、本機は AMBE+2™ に対応しています。The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #7,970,606, #8,359,197, #8,315,860, and #8,595,002.

FOSS ライセンス

本装置は下記のライセンスに基づくソフトウェアを使用します。なお各ライセンスは JVCケンウッド以外の第三者による規定のため、原文（英文）を記載します。

*Md5

Copyright (C) 1999, 2000, 2002 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty.

In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

L. Peter Deutsch

ghost@aladdin.com

ご使用の前に

本機の付属品

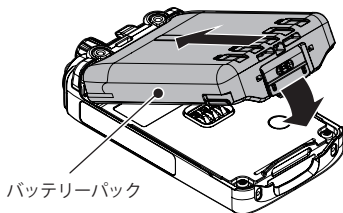
付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

充電式リチウムイオンバッテリーパック (KNB-75LA (1820 mAh))	1
充電器	1
ACアダプター	1
ベルトフック	1
ベルトフック取り付けねじセット	1
アンテナ	1
登録申請書類	一式
取扱説明書	1
保証書	1

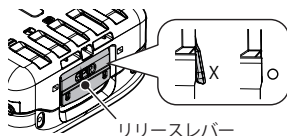
バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックの取り付け

- 1 バッテリーパック上側の凸部と本体裏側のみぞを合わせ、バッテリーパックを押し込む



- 2 リリースレバーを本体にロックさせる



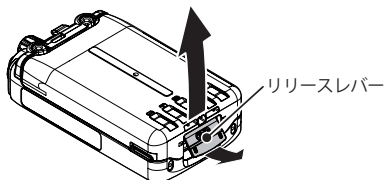
リリースレバーが横から見て浮かないようにしてください。



◆ バッテリーパックを取り付け/取り外すときは、無線機本体やバッテリーパックを落とさないように注意してください。

バッテリーパックの取り外し

1 バッテリーパックのリリースレバーを開きながら取り外す



バッテリーパックの特性について

- 充放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- 低温での充電時間は、室温時より長くなる場合があります。
- 高温状態で充放電したり、無線機を使用したりすると寿命が短くなります。また、高温状態ででの保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- バッテリーパックを高温状態で放置すると使用できなくなります。バッテリーパックが常温まで冷めてから使用してください。常温の状態でも使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保管後は、電池容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーパックの寿命です。このまま充電/放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。

使用済みバッテリーパックの取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープなどで絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。



Li-ion 20
充電式

不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店、弊社営業担当窓口、または販売店へお持ちください。リサイクルにご協力お願いいたします。

バッテリーパック使用時間の目安





使用条件	バッテリーセーブ機能	
	オン(初期値)	オフ
KNB-75LA 使用時	15 時間	13 時間
KNB-76L 使用時	18 時間	15 時間

送信出力 5W で、送信 5/受信 5/待受 90 の比率にて連続運用した場合の時間です。

ご使用の前に

バッテリーパック残量警告

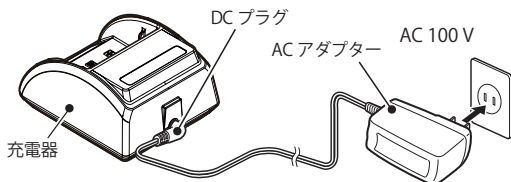
バッテリーパックの容量が減ると、表示部の「」が点滅し、LED が赤色に点滅し「ププ」と警告音が鳴ります。早めにバッテリーパックを充電するか交換してください。

: 十分 : 残量あり : 残量少  (点滅): 残量なし (要充電)

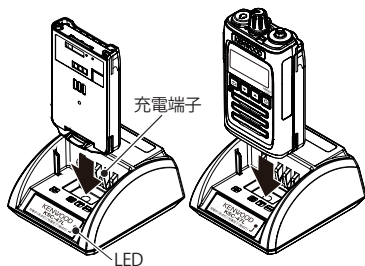
バッテリーパックの充電バッテリーパックは出荷時には満充電されていません。使用前に必ず満充電にしてください。また、使用後も必ず充電してください。

バッテリーパックの充電

- 1 付属するACアダプターのプラグを充電器に差し込む
- 2 ACアダプターをACコンセントに差し込む



- 3 バッテリーパック、またはバッテリーパックを装着した状態の無線機を充電器に差し込む



充電開始するとLEDが赤色に点灯します。充電時間の目安は下記のとおりです。

- KNB-75LA : 約 150 分
- KNB-76L : 約 180 分



◆ 無線機をご使用しながら充電はできません。無線機を充電器に差し込むときは、必ず電源を切ってください。

- 4 充電が完了するとLEDが緑色に点灯する
バッテリーパックまたは無線機を充電器から抜く。

充電時の状態表示

LEDの色	状態
赤点灯	充電中であることを表します。
赤点減または点灯しない	<p>バッテリーパックが正しく差し込まれていない場合があります。再度差し込みなおしてください。</p> <p>充電端子が接触不具合をおこしている場合があります。充電台の端子やバッテリーパックの端子を綿棒や乾いた布で拭いてから再度充電してください。</p> <p>それでも改善しない場合は、バッテリーパック、または充電台に何らかの不具合があります。直ちに充電を中止して、お買い上げの販売店、またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。</p>
緑点灯	充電が完了したことを表します。
緑と橙が交互に点灯	バッテリーパックの温度が充電温度範囲外になっています。一度バッテリーパックを充電台から抜き、バッテリーパックが常温になってから再度充電台に挿入してください。



- ◆ 必ず専用のバッテリーパック、充電器、ACアダプターを使用して充電してください。指定以外の機器を用いて充電すると故障の原因になります。
- ◆ 充電器や、ACアダプターまたはACアダプターのケーブルが損傷している場合は、充電せずお買い上げの販売店にご連絡ください。
- ◆ 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
- ◆ コンセントから、ACアダプターを抜く際は、コードではなくACアダプター本体を持って抜いてください。
- ◆ 充電器は、ACアダプターのケーブルを踏んだり、引っ掛けたりして、損傷したりしない場所に置いてください。
- ◆ 本体やバッテリーパックが濡れたままで充電すると、故障の原因になります。本体やバッテリーパックが濡れているときは、乾いた布でよく拭き取ってから充電器に差し込んでください。
- ◆ 充電器の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
- ◆ 充電器の近くで無線機を使用すると、充電器が誤動作することがあります。

接続端子の清掃

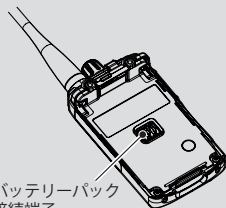


- ◆ バッテリーパック接続端子の清掃には、ウェットティッシュは使用しないでください。

ウェットティッシュを使用して清掃すると接触不良の原因となる場合があります。

接続端子の清掃には、乾いた綿棒を使うか、綿棒などに無水エタノール(無水アルコール)を少量含ませて、端子が変形しない様にやさしく拭いてください。

無水エタノール(無水アルコール)は薬局・薬店で市販されています。



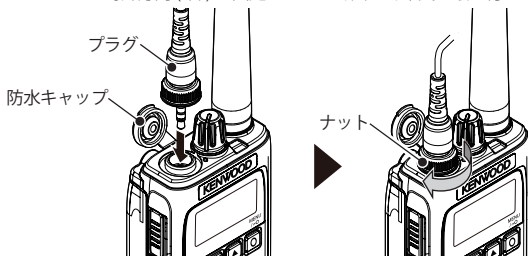
バッテリーパック
接続端子

ご使用の前に

オプション機器の接続 (別売品)

イヤホン/スピーカーマイクロホンなど外部機器を接続する。

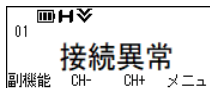
防水キャップを外して、無線機の接続端子にオプション機器のプラグを差し込み、プラグのナットを時計方向(右)に固定されるまで回して確実に取り付けます。



- ◆ 必ず無線機の電源を切った状態で接続してください。
- ◆ 防水キャップが正しく取り付けられていないと防水性能は保証できません。オプションを使用しないときは、防水キャップが正しく取り付けられていることを確認してください。また、オプションを接続した場合は防水性能の保証はできません。
- ◆ 断線防止のため、オプションを取り外すときは、プラグを持って取り外してください。

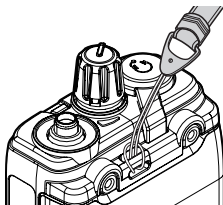
半挿しエラー警告

オプション機器のプラグ接続が不完全な場合を検出すると、右記の画面になりエラー音が鳴ります。接続の不具合が解消されたときエラー表示とエラー音は停止します。



ストラップの取り付け

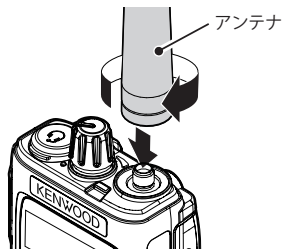
別売品のネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、無線機背面上部のストラップ用穴を使用してください。



- ◆ ストラップを持って本機を振り回したりしないでください。故障やけがの原因となります。

アンテナの取り付け

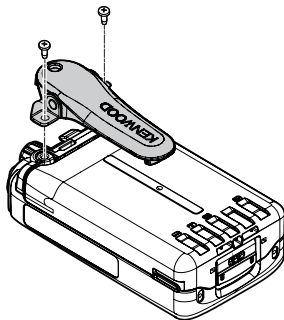
アンテナの根元を持ち、本体上面のコネクタに時計方向(右)に固定されるまで回して確実に取り付けます。



ベルトフックの取り付け

ベルトフックと本体のねじ穴を合わせて、付属のねじで取り付けます。

ベルトフックを本体のねじ穴に合わせて、ねじが緩まないようにしっかり取り付けてください。

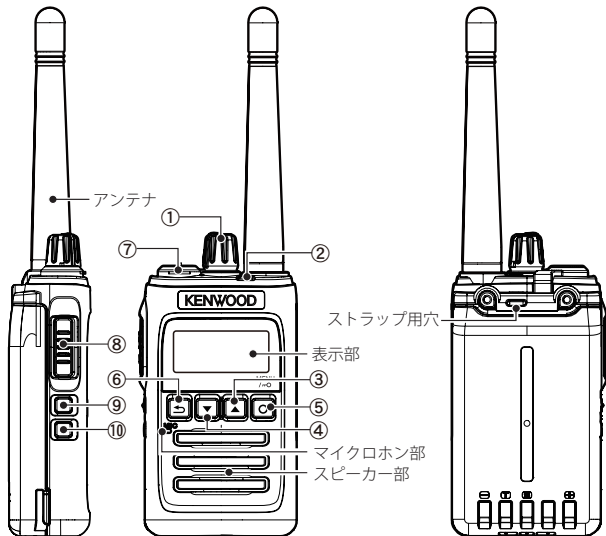


- ◆ 付属以外のねじを使用しないでください。
- ◆ 時々ねじの緩みがないか確認してください。

各部の名称と機能

操作キー/ツマミ

本機の【○】、【▲】、【▼】、【↵】、【サイド1】、【サイド2】キーには、任意の機能を登録することができます。



① 【電源/音量】ツマミ

電源のオン/オフ、および音量を調節します。

② LED

送信時は赤色に点灯します。受信時は緑色に点灯します。

選択呼出受信のときは設定した色に点滅します。

③ 【▲】アップキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	チャンネル番号が上がります。
押し続ける。	チャンネル番号が連続して上がります。
【↵】を押してから押す。	オートチャンネルセレクトを開始します。

④ 【▼】ダウンキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	チャンネル番号が下がります。
押し続ける。	チャンネル番号が連続して下がります。
【↵】を押してから押す。	チャンネルスキャンを開始します。

⑤ 【O】メニューキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	メニューを表示します。
押しながら電源を入れる。	拡張メニューを表示します。
押し続ける。	キーロック機能がオン/オフします。

⑥ 【↵】バックキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	副機能を呼び出します。
押し続ける。	機能は設定されていません。
押してからもう一度押す。	CH15の呼出しチャンネル(ダイレクトチャンネル機能)に切り替わります。

⑦ オプション接続端子(防水キャップ)

イヤホン/スピーカーマイクロホンなど外部機器を接続します。

⑧ 【PTT】スイッチ

押すと送信します。押したままマイクロホンに向かって話します。

⑨ 【サイド1】キー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	表示しているチャンネルのスキャン対象/非対象を切り替えます。
押し続ける。	送信出力が切り替わります。

⑩ 【サイド2】キー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	設定されたセカンド PTT チャンネルに移ります。 ◆セカンド PTT 機能を使う為には、事前にメニューモードでセカンド PTT チャンネルの設定をおこなっておく必要があります。《☞ p.42 を参照》
押し続ける。	機能は設定されていません。



◆ 各操作キーの動作機能は出荷時の設定です。メモリーコントロールプログラム MCP-10B(フリーソフト)を使用し、各キーに動作機能を割り付けることにより、動作機能は変更できます。《☞ p.50 を参照》

各部の名称と機能

表示部



表示エリア	説明
アイコン表示	設定された機能の動作をアイコンで表示します。
メイン表示	チャンネル番号やメッセージなどを表示します。
サブ表示	登録局のチャンネル番号などを表示します。
補助領域表示	設定された機能の補助的内容を表示します。
キーガイド表示	<p>【←】 【▼】 【▲】 【○】 キーを押すと起動する機能を表示部の下側に表示します。</p> <p>※表示されるキーガイドは無線機の状態で異なります。</p>

表示可能なアイコン

アイコン	説明
	受信している電波の強さを表示します。 : 強 : 中 : 弱 : 微弱 表示なし: キャリアなし : 圏外
	バッテリー容量の残量を表示します。 : 高 : 中 : 低 (点滅): 早めに充電してください。
H	送信出力がハイパワーに設定されているときに表示します。
L	送信出力がローパワーに設定されているときに表示します。
R	受信専用チャンネルに設定されているとき、および受信専用の上空チャンネルに設定されているときに表示します。(受信専用)
PH	PTT ホールド機能が設定されているときに表示します。
	スキャン中に表示します。スキャンが一時停止中のときは点滅します。
AC	オートチャンネルセレクト機能がオンのときに表示します。
	デュアルグループ ACS 機能で、サブグループのチャンネルで送信のとき、または停止中のときに点滅します。

各部の名称と機能

アイコン	説明
#2	セカンドPTT機能がオンのときに表示します。 セカンドPTTチャンネルを表示しているときは点滅します。
P	選択しているチャンネルまたはスキャン一時停止しているチャンネルがプライオリティチャンネルに設定されているときに表示します。
≡	選択しているチャンネルまたはスキャン一時停止しているチャンネルがスキャンの対象チャンネルであるときに表示します。
◆	秘話機能がオンのときに表示します。暗号化された信号を受信すると点滅します。
🔊	モニター機能がオンのときに表示します。
✳️	Bluetooth機能がオンのときに表示します。処理中のときは点滅します。 TPZ-D563BTEのみ
📶	Bluetooth機器と接続中に表示します。 TPZ-D563BTEのみ
🔒	キーロック機能がオンのときに表示します。
🔕	サイレントアラーム機能が設定されているときに表示します。
🔦	点滅:サイレントアラーム機能による音声ミュート状態のときに表示します。 点灯:音声ミュートをキー操作で解除したときに表示します。
👂	はっきり聞き取り機能がオンのときに表示します。
🔊	音量アッテネート機能がオンのときに表示します。
🎧	イヤホン切替機能がオンのときに表示します。
📞	選択呼出が一致しているときに点滅します。
🗣️	VOX機能がオンのときに表示します。
🔊	外部スピーカーがオンのときに表示します。



◆ 無線機の設定状態により、使用できる機能および表示されるアイコンは変更されます。

操作のしかた

操作説明について

本取扱説明書の操作説明は工場出荷時に設定されている機能を説明しています。

メモリーコントロールプログラム MCP-10B(フリーソフト)を使用すると、メニューモードで操作できる機能を追加し、詳細な設定をすることができます。《p.50を参照》

操作手順の説明では、操作キー(【○】キー、【電源/音量】ツマミなど)の、「キー」、「ツマミ」を記載しません。

通話する

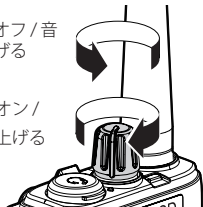
- 1 【電源/音量】を時計方向に回して電源を入れる
「ピーツ」と鳴り電源が入ります。電源を切るには【電源/音量】を「カチツ」という音がするまで反時計方向に回します。

電源オフ/音量下げる

- 2 【電源/音量】を回して音量を調整する

右(時計方向)に回すと音量が大きく、左(反時計方向)に回すと音量が小さくなります。

電源オン/音量上げる



- 3 【▲】/【▼】を押して通話チャンネルを合わせる
使用するチャンネルが決まっている場合の通話

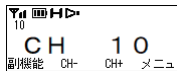
CH10 に設定の
A さん



通話できる



CH10 に設定の
B さん



通話する相手局と同じチャンネルに合わせます。相手局の電波を受信すると、LEDが緑色に点灯し、スピーカーから受信音が聞こえます。

使用するチャンネルが決まっていない場合の通話

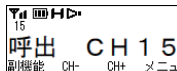
呼出用チャンネル
に設定の A さん



B さん、CH3 に
切り替えてください



呼出用チャンネル
に設定の B さん



はい。切り替えました



呼出 CH 15
チャンネル切り替え

CH 03

呼出用チャンネル(CH15)に合わせて、通話したい相手と使用するチャンネルを決めます。



- ◆ 呼出用チャンネル (CH15) は、不特定多数の人との通話を含め、一時的な呼出チャンネルとなっており、継続的な通話の場合は、別のチャンネル (CH1~14、16~82、S1~S15 (受信専用)) に切り替えてから通話してください。
- ◆ 呼出用チャンネル (CH15) ではユーザーコード (UC) を使ったグループ通話や秘話機能などを設定した通話ができませんのでご注意ください。

4 【PTT】を押して送信する

送信状態になり、LED が赤色に点灯します。

- 他に送信している無線局がないこと (送受信 LED の緑色が消灯していること) を確認してから送信してください。

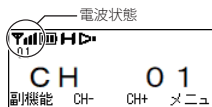
- ## 5 【PTT】を押しながらマイクロホンに向かって話す
- マイクロホンは口元から 3~4 cm 程度離してください。
【PTT】を離すと待受状態に戻ります。



- ◆ 大きな声で話したり、マイクロホンとの距離が近すぎたりすると、明瞭度が低下する場合があります。

6 相手の音声を受信する

【PTT】を離すと待受状態になります。相手が送信し、受信すると、表示部に電波状態のアイコンが表示されて、LED が緑色に点灯し、相手の音声がかかります。

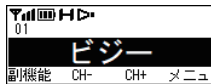


- ## 7 【電源/音量】を反時計方向に回して電源を切る
- 使用後は、電源を切ってください。

通話するときのアドバイス

キャリアセンス (混信防止機能) について

本機は、電波法の規定によりキャリアセンス (混信防止機能) を備えています。



送信しようとしているチャンネルを他の局が使用中の場合は、そのチャンネルでの送信を禁止する機能です。送信しようとするチャンネルが他の局に使われているときに【PTT】を押すと、警告音が鳴り、表示部に「ビジー」と表示されます。他の局が通話を終了してから送信してください。

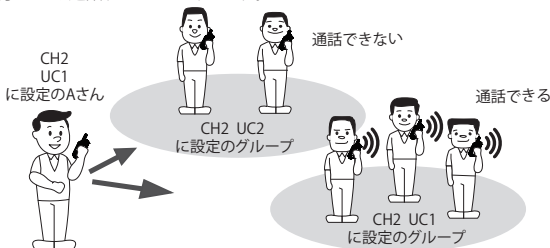
通話時間の制限について

本機は、電波法の規定により 1 回の通話時間を、送信と受信あわせて 5 分間に制限しています。連続送信を自動的に停止する機能です。本機は、連続して 5 分以上の送信はできません。5 分以上送信を続けると警告音が鳴り、送信が停止します。この場合 1 分以上経過しないと再度送信することはできません。

操作のしかた

グループで通話する

ユーザーコードを使用すると、簡易のグループ通話をおこなうことができます。同じチャンネルを複数のユーザーが使用している場合、同じユーザーコードを設定しているグループの相手とだけ通話することができます。



ユーザーコードを設定する

グループ通話をおこなうには、送信側、受信側ともに同じユーザーコードに設定しておく必要があります。

- 1 **【○】**を押してメニューに入る
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 **【▼】/【▲】**で、カテゴリーアイコンの「機能設定」にカーソルを合わせ、**【○】**を押す
- 3 **【▼】/【▲】**で、設定項目「UC設定」を表示させ、**【○】**を押す
ユーザーコード (UC) の設定値が表示されます。
- 4 **【▼】/【▲】**で、1桁目のユーザーコードを1~9から選択し、**【○】**を押す

CH一括設定	
コード	なし
戻る	

【▲】
を2回押す

CH一括設定	
コード	1
戻る	選択

- 5 2桁目以降を設定する場合は、手順4を繰り返す(2桁目以降は0~9)
ユーザーコードは、なし、1~511の範囲で設定することができます。
 - 2桁以上を表示しているときに、**【←】**を押すと1桁目が削除されます。
 - **【←】**を1秒以上押すと全桁が削除されます。
- 6 **【○】**を押し、ユーザーコード確定する

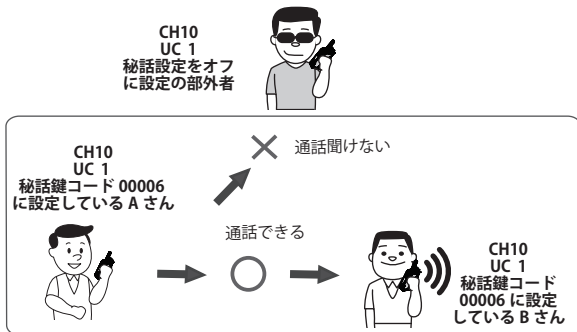


◆ 呼出用チャンネル (CH15) では本機能は使用できません。他のチャンネルを選んでから設定してください。

秘話機能で通話する

デジタルでの音声通話に暗号化をおこない、秘匿性を高めた通話ができる機能です。通話内容の傍受を防止します。

出荷時、秘話機能は設定されていません。拡張メニューモードの秘話設定カテゴリ内の一括秘話鍵設定で、秘話鍵コードを設定したあと使用することができます。



秘話鍵コードを設定する

- 1 【○】を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードのカテゴリアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリアイコンの「 秘話設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す

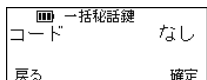


【▲】
を7回押す

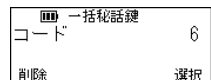


設定項目名が表示されます。

- 3 設定項目の「一括秘話鍵」を表示させ、【○】を押す
秘話鍵コードの設定値が表示されます。
- 4 【▼】/【▲】で、1桁目の秘話鍵コードを1~9から選択し、【○】を押す




【▲】
を7回押す



操作のしかた

- 2桁目以降を設定する場合は、手順4を繰り返す(2桁目以降は0~9)
秘話鍵コードは、なし、1~32767の範囲で設定することができます。
- [○]**を押し、秘話鍵コード確定する
拡張メニューモードを終了します。
- 一度電源を切ってから、再度電源を入れる

秘話機能を使用する

- [○]**を押し、メニューに入る
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- [▼]/[▲]**で、カテゴリーアイコンの「秘話設定」にカーソルを合わせ、**[○]**を押し



設定項目名が表示されます。

- [▼]/[▲]**で、設定項目「秘話」を表示させ、**[○]**を押し
- [▼]/[▲]**で、「オン」を選択し、**[○]**を押し



- [PTT]**を押し、通話する



- ◆ 秘話機能は、通話する相手局も秘話機能がオンで、同じ秘話鍵コードが設定されていないと正しく通話できません。
- ◆ 秘話機能は、全チャンネルに対して同じ値を一括設定するか、メモリーコントロールプログラム (MCP-10B) を使用することで、チャンネルごとに個別設定することができます。
- ◆ 呼出用チャンネル (CH15) では本機能は使用できません。他のチャンネルを選んでから設定してください。
- ◆ 秘話機能を使用しても、電波を使用した通話であるため、第三者による盗聴を完全に阻止できるものではありません。

Bluetooth® 機器を使って通信する TPZ-D563BTEのみ

本機の Bluetooth 機能を有効にすることで、弊社指定の Bluetooth 対応機器と接続することができます。

本機で接続できるBluetooth対応機器

本機に接続可能な Bluetooth 対応機器については、下記の URL および右記の QR コードからご覧ください。

<https://www.kenwood.com/jp/support/com/wireless-headset>



Bluetooth機器とペアリングする

ペアリングとは、無線機と Bluetooth 対応機器の機器設定をお互いに登録する機能です。一度ペアリングした Bluetooth 機器とは、再びペアリングする必要はありません。

弊社指定 Bluetooth 対応機器 KHS-55BT との接続を例に説明します。

【無線機のBluetooth機能をオンにする】

1 【○】を押してメニューに入る

メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。

- 拡張メニューモードからでも設定可能です。

2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「*」にカーソルを合わせ、【○】を押す

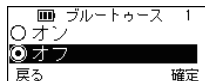


【▲】
を押す

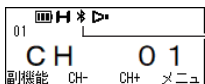
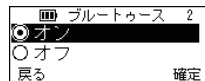


3 【▼】/【▲】で、設定項目の「ブルートゥース」を表示させ、【○】を押す Bluetooth 設定項目名が表示されます。

4 【▼】/【▲】で、「オン」を選択し、【○】を押す



【▲】
を押す



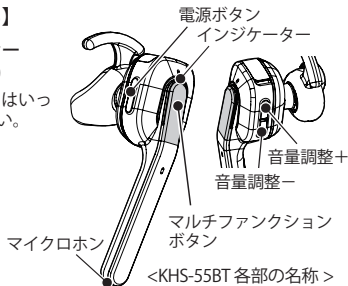
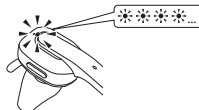
表示

Bluetooth 機能が起動し、アイコン「*」が表示されます。

操作のしかた

【KHS-55BTをペアリングモードにする】

- 1 KHS-55BTの電源ボタンをインジケータが点滅するまで押す(約5秒間)
インジケータが速く点滅しないときはいったん電源を切って、やり直してください。



【無線機からKHS-55BTをペアリングする】

- 1 【○】を押してメニューに入る
メニューモードの 카테고리アイコンが表示されます。
● 拡張メニューモードからでも設定可能です。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリアイコンの「*」にカーソルを合わせ、【○】を押す



【▲】
を押す



- 3 【▼】/【▲】で、設定項目の「BT機器」を表示させ、【○】を押す
Bluetooth 機器設定項目名が表示されます。

- 4 【▼】/【▲】で、「BT機器検索」にカーソルを合わせ、【○】を押す



【▲】
を押す



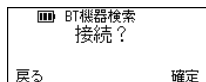
- 5 Bluetooth機器の検索を開始し、検出するとBluetooth機器を表示するので選択し、【○】を押す



検出すると




- 6 接続確認メッセージが表示されるので、【○】を押し接続処理を実行する

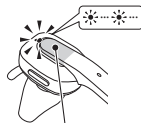


【○】
を押す



7 KHS-55BTが「ピピピッ、ピピピッ」と鳴ったら、マルチファンクションボタンを押す

KHS-55BTは接続完了後、インジケータがゆっくり点滅します。無線機は「接続完了」を表示しアイコン「」が表示されます。



マルチファンクションボタン

8 以降は、Bluetooth機能オンで、自動的に接続されます




◆ 最大 10 台の Bluetooth 対応機器をペアリング登録できます。すでに 10 台登録されているときにペアリングをおこなうと、最も古く登録、または接続した Bluetooth 対応機器の登録を解除し、新しい Bluetooth 対応機器を登録します。

オートチャンネルセレクト (ACS) 機能を使って検索する

空いているチャンネルを通話の都度自動で探し、同じユーザーコードが設定されている受信局も自動的に同じチャンネルへ引き込む機能です。グループが多い場所での混信を緩和します。

オートチャンネルセレクト機能を使用するには、送信側も受信側もオートチャンネルセレクト機能を有効にし、同じユーザーコードに設定しておく必要があります。

ユーザーコードを設定する

- 1 **【○】**を押してメニューに入る
メニューモードの設定項目が表示されます。
- 2 **【▼】/【▲】**で、カテゴリーアイコンの「機能設定」にカーソルを合わせ、**【○】**を押す
- 3 **【▼】/【▲】**で、設定項目「UC設定」を表示させ、**【○】**を押す
ユーザーコード (UC) の設定値が表示されます。
- 4 **【▼】/【▲】**で、1~511の設定値から任意のユーザーコードを選択し、**【○】**を押す

操作のしかた

オートチャンネルセレクト機能種別選択

本機は、メモリーコントロールプログラム (MCP-10B) を使用することで、オートチャンネルセレクト (ACS) 機能、グループ ACS 機能、デュアルグループ ACS 機能の3種類のチャンネル検索動作を選択することができます。

■ 拡張メニューに追加した「ACSタイプ」で、チャンネル検索動作を選択する

- 工場出荷状態では、「ACSタイプ」はデュアルグループ ACS 機能が選択されています。

「ノーマル」：オートチャンネルセレクト機能が動作します。《下記の説明に続きます》

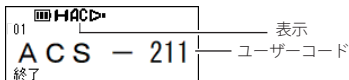
「グループ」：グループ ACS 機能が動作します。《☞ p.29 に続きます》

「デュアル」：デュアルグループ ACS 機能が動作します。《☞ p.30 に続きます》

オートチャンネルセレクト(ACS)機能を使う

1 【←】を押してから【▲】を押す

「AC」アイコンが表示され、空きチャンネル検索を開始します。

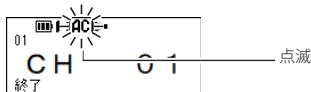


◆ 【←】を長押しすると、本機能は解除されます。

2 受信側に送信する

【PTT】を押すと空きチャンネルで、設定中のユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後3秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止している間は「AC」アイコンが点滅します。

- チャンネル検索が一時停止して3秒のあいだに受信側からの応答がないと、チャンネル検索が再開します。



3 受信側が【PTT】を押す

受信側は、チャンネル検索中に一致するユーザーコードの音声を受信します。受信中、および、受信終了後3秒間は、チャンネル検索を一時停止します。チャンネル検索を一時停止している間は、アイコンが点滅します。

受信側が【PTT】を押して応答すると、空きチャンネルにて通話ができます。

- 受信してから3秒以内に送信しないと、チャンネル検索が再開します。

グループACS機能を使う

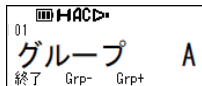
オートチャンネルセレクト (ACS) に対し、チャンネル検索をグループ分けして検索速度を向上させた検索方法です。

グループ	検索チャンネル					グループ	検索チャンネル				
グループA	1	7	14	20	23	グループJ	40	45	56	69	—
グループB	2	8	13	22	—	グループK	41	46	57	70	—
グループC	3	9	16	21	24	グループL	71	77	31	47	60
グループD	4	10	17	25	28	グループM	72	78	32	48	61
グループE	5	11	18	26	29	グループN	73	79	33	49	62
グループF	6	12	19	27	30	グループO	74	80	34	50	63
グループG	37	42	53	58	66	グループP	75	81	35	51	64
グループH	38	43	54	59	67	グループQ	76	82	36	52	65
グループI	39	44	55	68	—						

- 呼出用チャンネルであるチャンネル15は含みません。
- 送信側と受信側で同一のグループを選択してください。

1 【↵】を押してから【▲】を押す

「AC」アイコンが表示され、グループACSでのチャンネル検索を開始します。



◆ 【↵】を長押しすると、本機能は解除されます。

2 【▼】/【▲】を押して検索グループを切り替える

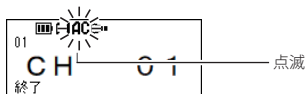


グループを切り替えるとすぐにチャンネル検索を開始します。

3 受信側に送信する

【PTT】を押すと空きチャンネルで、設定中のユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後3秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止しているあいだはアイコンが点滅します。

- チャンネル検索が一時停止して3秒のあいだに受信側からの応答がないと、チャンネル検索が再開します。



操作のしかた

4 受信側が【PTT】を押す

受信側は、チャンネル検索中に一致するユーザーコードの音声を受信します。受信中、および、受信終了後3秒間は、チャンネル検索を一時停止します。チャンネル検索を一時停止しているあいだは、アイコンが点滅します。

受信側が【PTT】を押して応答すると、空きチャンネルにて通話ができます。

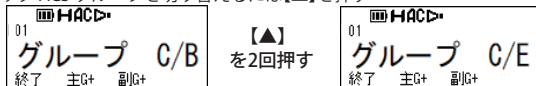
- 受信してから3秒以内に送信しないと、チャンネル検索が再開します。

デュアルグループACS機能を使う

グループ ACS は、PTT で送信するグループのみを扱うのに対し、デュアルグループ ACS は、PTT および 2nd PTT で送信する 2 つのグループを扱います。そのため、2nd PTT の通信経路でも、混信・妨害が発生したときに使用 CH の切り替えの連絡をする手間を省き、CH の切り替えの連絡をする手間が不要でスムーズな通信をおこなうことができます。

メイン(主) ACS グループ						サブ(副) ACS グループ					
グループ	検索チャンネル					グループ	検索チャンネル				
グループ A	1	7	14	20	23	グループ A	1	7	14	20	23
グループ B	2	8	13	22	—	グループ B	2	8	13	22	—
グループ C	3	9	16	21	24	グループ C	3	9	16	21	24
グループ D	4	10	17	25	28	グループ D	4	10	17	25	28
グループ E	5	11	18	26	29	グループ E	5	11	18	26	29
グループ F	6	12	19	27	—	グループ F	6	12	19	27	—
グループ G	7	13	20	28	—	グループ G	7	13	20	28	—
グループ H	8	14	21	29	—	グループ H	8	14	21	29	—
グループ I	9	15	22	30	—	グループ I	9	15	22	30	—
グループ J	10	16	23	31	—	グループ J	10	16	23	31	—
グループ K	11	17	24	32	—	グループ K	11	17	24	32	—
グループ L	12	18	25	33	—	グループ L	12	18	25	33	—
グループ M	13	19	26	34	—	グループ M	13	19	26	34	—
グループ N	14	20	27	35	—	グループ N	14	20	27	35	—
グループ O	15	21	28	36	—	グループ O	15	21	28	36	—
グループ P	16	22	29	37	—	グループ P	16	22	29	37	—
グループ Q	17	23	30	38	—	グループ Q	17	23	30	38	—
グループ R	18	24	31	39	—	グループ R	18	24	31	39	—
グループ S	19	25	32	40	—	グループ S	19	25	32	40	—
グループ T	20	26	33	41	—	グループ T	20	26	33	41	—
グループ U	21	27	34	42	—	グループ U	21	27	34	42	—
グループ V	22	28	35	43	—	グループ V	22	28	35	43	—
グループ W	23	29	36	44	—	グループ W	23	29	36	44	—
グループ X	24	30	37	45	—	グループ X	24	30	37	45	—
グループ Y	25	31	38	46	—	グループ Y	25	31	38	46	—
グループ Z	26	32	39	47	—	グループ Z	26	32	39	47	—
グループ AA	27	33	40	48	—	グループ AA	27	33	40	48	—
グループ AB	28	34	41	49	—	グループ AB	28	34	41	49	—
グループ AC	29	35	42	50	—	グループ AC	29	35	42	50	—
グループ AD	30	36	43	51	—	グループ AD	30	36	43	51	—
グループ AE	31	37	44	52	—	グループ AE	31	37	44	52	—
グループ AF	32	38	45	53	—	グループ AF	32	38	45	53	—
グループ AG	33	39	46	54	—	グループ AG	33	39	46	54	—
グループ AH	34	40	47	55	—	グループ AH	34	40	47	55	—
グループ AI	35	41	48	56	—	グループ AI	35	41	48	56	—
グループ AJ	36	42	49	57	—	グループ AJ	36	42	49	57	—
グループ AK	37	43	50	58	—	グループ AK	37	43	50	58	—
グループ AL	38	44	51	59	—	グループ AL	38	44	51	59	—
グループ AM	39	45	52	60	—	グループ AM	39	45	52	60	—
グループ AN	40	46	53	61	—	グループ AN	40	46	53	61	—
グループ AO	41	47	54	62	—	グループ AO	41	47	54	62	—
グループ AP	42	48	55	63	—	グループ AP	42	48	55	63	—
グループ AQ	43	49	56	64	—	グループ AQ	43	49	56	64	—
グループ AR	44	50	57	65	—	グループ AR	44	50	57	65	—
グループ AS	45	51	58	66	—	グループ AS	45	51	58	66	—
グループ AT	46	52	59	67	—	グループ AT	46	52	59	67	—
グループ AU	47	53	60	68	—	グループ AU	47	53	60	68	—
グループ AV	48	54	61	69	—	グループ AV	48	54	61	69	—
グループ AW	49	55	62	70	—	グループ AW	49	55	62	70	—
グループ AX	50	56	63	71	—	グループ AX	50	56	63	71	—
グループ AY	51	57	64	72	—	グループ AY	51	57	64	72	—
グループ AZ	52	58	65	73	—	グループ AZ	52	58	65	73	—
グループ BA	53	59	66	74	—	グループ BA	53	59	66	74	—
グループ BB	54	60	67	75	—	グループ BB	54	60	67	75	—
グループ BC	55	61	68	76	—	グループ BC	55	61	68	76	—
グループ BD	56	62	69	77	—	グループ BD	56	62	69	77	—
グループ BE	57	63	70	78	—	グループ BE	57	63	70	78	—
グループ BF	58	64	71	79	—	グループ BF	58	64	71	79	—
グループ BG	59	65	72	80	—	グループ BG	59	65	72	80	—
グループ BH	60	66	73	81	—	グループ BH	60	66	73	81	—
グループ BI	61	67	74	82	—	グループ BI	61	67	74	82	—
グループ BJ	62	68	75	83	—	グループ BJ	62	68	75	83	—
グループ BK	63	69	76	84	—	グループ BK	63	69	76	84	—
グループ BL	64	70	77	85	—	グループ BL	64	70	77	85	—
グループ BM	65	71	78	86	—	グループ BM	65	71	78	86	—
グループ BN	66	72	79	87	—	グループ BN	66	72	79	87	—
グループ BO	67	73	80	88	—	グループ BO	67	73	80	88	—
グループ BP	68	74	81	89	—	グループ BP	68	74	81	89	—
グループ BQ	69	75	82	90	—	グループ BQ	69	75	82	90	—
グループ BR	70	76	83	91	—	グループ BR	70	76	83	91	—
グループ BS	71	77	84	92	—	グループ BS	71	77	84	92	—
グループ BT	72	78	85	93	—	グループ BT	72	78	85	93	—
グループ BU	73	79	86	94	—	グループ BU	73	79	86	94	—
グループ BV	74	80	87	95	—	グループ BV	74	80	87	95	—
グループ BV	75	81	88	96	—	グループ BV	75	81	88	96	—
グループ BW	76	82	89	97	—	グループ BW	76	82	89	97	—
グループ BX	77	83	90	98	—	グループ BX	77	83	90	98	—
グループ BY	78	84	91	99	—	グループ BY	78	84	91	99	—
グループ BZ	79	85	92	100	—	グループ BZ	79	85	92	100	—
グループ CA	80	86	93	101	—	グループ CA	80	86	93	101	—
グループ CB	81	87	94	102	—	グループ CB	81	87	94	102	—
グループ CC	82	88	95	103	—	グループ CC	82	88	95	103	—
グループ CD	83	89	96	104	—	グループ CD	83	89	96	104	—
グループ CE	84	90	97	105	—	グループ CE	84	90	97	105	—
グループ CF	85	91	98	106	—	グループ CF	85	91	98	106	—
グループ CG	86	92	99	107	—	グループ CG	86	92	99	107	—
グループ CH	87	93	100	108	—	グループ CH	87	93	100	108	—
グループ CI	88	94	101	109	—	グループ CI	88	94	101	109	—
グループ CJ	89	95	102	110	—	グループ CJ	89	95	102	110	—
グループ CK	90	96	103	111	—	グループ CK	90	96	103	111	—
グループ CL	91	97	104	112	—	グループ CL	91	97	104	112	—
グループ CM	92	98	105	113	—	グループ CM	92	98	105	113	—
グループ CN	93	99	106	114	—	グループ CN	93	99	106	114	—
グループ CO	94	100	107	115	—	グループ CO	94	100	107	115	—
グループ CP	95	101	108	116	—	グループ CP	95	101	108	116	—
グループ CQ	96	102	109	117	—	グループ CQ	96	102	109	117	—
グループ CR	97	103	110	118	—	グループ CR	97	103	110	118	—
グループ CS	98	104	111	119	—	グループ CS	98	104	111	119	—
グループ CT	99	105	112	120	—	グループ CT	99	105	112	120	—
グループ CU	100	106	113	121	—	グループ CU	100	106	113	121	—
グループ CV	101	107	114	122	—	グループ CV	101	107	114	122	—
グループ CW	102	108	115	123	—	グループ CW	102	108	115	123	—
グループ CX	103	109	116	124	—	グループ CX	103	109	116	124	—
グループ CY	104	110	117	125	—	グループ CY	104	110	117	125	—
グループ CZ	105	111	118	126	—	グループ CZ	105	111	118	126	—
グループ DA	106	112	119	127	—	グループ DA	106	112	119	127	—
グループ DB	107	113	120	128	—	グループ DB	107	113	120	128	—
グループ DC	108	114	121	129	—	グループ DC	108	114	121	129	—
グループ DD	109	115	122	130	—	グループ DD	109	115	122	130	—
グループ DE	110	116	123	131	—	グループ DE	110	116	123	131	—
グループ DF	111	117	124	132	—	グループ DF	111	117	124	132	—
グループ DG	112	118	125	133	—	グループ DG	112	118	125	133	—
グループ DH	113	119	126	134	—	グループ DH	113	119	126	134	—
グループ DI	114	120	127	135	—	グループ DI	114	120	127	135	—
グループ DJ	115	121	128	136	—	グループ DJ	115	121	128	136	—
グループ DK	116	122	129	137	—	グループ DK	116	122	129	137	—
グループ DL	117	123	130	138	—	グループ DL	117	123	130	138	—
グループ DM	118	124	131	139	—	グループ DM	118	124	131	139	—
グループ DN	119	125	132	140	—	グループ DN	119	125	132	140	—
グループ DO	120	126	133	141	—	グループ DO	120	126	133	141	—
グループ DP	121	127	134	142	—	グループ DP	121	127	134	142	—
グループ DQ	122	128	135	143	—	グループ DQ	122	128	135	143	—
グループ DR	123	129	136	144	—	グループ DR	123	129	136	144	—
グループ DS	124	130	137	145	—	グループ DS	124	130	137	145	—
グループ DT	125	131	138	146	—	グループ DT	125	131	138	146	—
グループ DU	126	132	139	147	—	グループ DU	126	132	139	147	—
グループ DV	127	133	140	148	—	グループ DV	127	133	140	148	—
グループ DW	128	134	141	149	—	グループ DW	128	134	141	149	—
グループ DX	129	135	142	150	—	グループ DX	129	135	142	150	—
グループ DY	130	136	143	151	—	グループ DY	130	136	143	151	—
グループ DZ	131	137	144	152	—	グループ DZ	131	137	144	152	—
グループ EA	132	138	145	153	—	グループ EA	132	138	145	153	—
グループ EB	133	139	146	154	—	グループ EB	133	139	146	154	—
グループ EC	134	140	147	155	—						

サブ ACS グループを切り替えるには【▲】を押す



グループを切り替えるとすぐにチャンネル検索を開始します。

3 受信側に送信する

■ メインACSグループで送信する場合

【PTT】を押すとメイン ACS グループの空きチャンネルで、設定したユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後 3 秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止しているあいだは「AC」アイコンが点滅します。

■ サブACSグループで送信する場合

【サイド2】を押すと、サブ ACS1 グループの空きチャンネルで、設定したユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後 3 秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止しているあいだは「AC」および「S」アイコンが点滅します。



メイン ACS グループで一時停止

サブ ACS グループで一時停止

4 受信側が【PTT】/【サイド2】を押して通話開始する

受信側が、メイン ACS グループの場合【PTT】を、サブ ACS グループの場合、【サイド2】を押して応答すると、空きチャンネルで通話ができます。

- 受信してから 3 秒のあいだに送信しないと、チャンネル検索が再開します。

その他の基本機能

その他、出荷時に設定されている基本機能について説明します。

はっきり聞き取りモード

起動させることで、受信オーディオ特性を調整し独自のオーディオ特性に切り替えて、騒音下などで受信音声を聞き取りやすくする効果があります。

1 【○】を押してメニューに入る

メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。

2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「♪音響設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す

3 【▼】/【▲】で、設定項目「はっきり聞き取り」を表示させ、【○】を押す

はっきり聞き取り機能の設定値が表示されます。

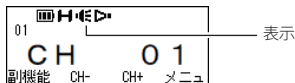
操作のしかた

4 【▼】/【▲】で、項目を選択する

選択した時点で、設定が反映されます。受信音声聞きながらオン/オフを切り替えることで、聞こえ具合の変化を確認できます。




5 【サイド1】を押してメニューモードを終了する




キーロック機能

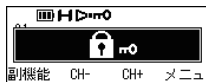
【PTT】/【電源/音量】以外の操作キーに登録した機能をロックし、ポケットなどに入れているときの誤操作を防ぎます。

1 【○】を長く押す

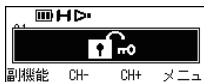
「」アイコンが表示され、キーロックのポップアップが表示されてキー操作がロックされます。キーロック中にキーを操作するとビープ音が鳴り、キーロックのポップアップが表示されます。

2 【○】を長く押す

「」アイコンの表示が無くなり、キーロック解除のポップアップが表示されてキー操作のロックが解除されます。



キーロック動作時




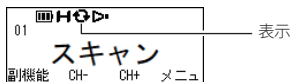
キーロック解除時

チャンネルスキャン機能

チャンネルを自動的に変化させて目的とする信号を受信できるチャンネルを探す機能です。ユーザーコードを設定しているときは、ユーザーコードが一致するチャンネルを探します。

1 【↶】を押してから【▼】を押す

「」アイコンが表示され、スキャンを開始します。



2 スキャン対象のチャンネルで受信する
スキャンが一時停止します。

3 【↶】を押してから【▼】を押す

スキャンを停止し、チャンネル表示に戻ります。




◆ スキャン動作中は、下記の機能を実行することができません。

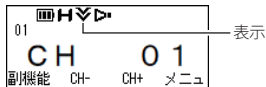
- ・ 上空チャンネル
- ・ 送信出力切り替え
- ・ ダイレクトチャンネル1を選択


スキャン対象

各チャンネルをスキャン対象にするか、しないかを選択できます。

1 【サイド1】を押す

【サイド1】を押したあと「ピッ」とピープ音が鳴り、「」アイコンが表示されます。表示しているチャンネルがスキャン対象チャンネルになったことを示しています。



もう一度、【サイド1】を押して、「ピッ」とピープ音が鳴って、「」アイコンが消えると、表示しているチャンネルがスキャン非対象チャンネルになったことを示しています。

- スキャン動作中は、スキャン対象/非対象の切り替えはできません。
- スキャン中に受信チャンネルを除外したい場合は、受信中に【サイド1】を押すことで一時的にそのチャンネルを除外できます。スキャン動作をオン/オフすると元に戻ります。

バックライト機能

LCDのバックライトを点灯させる機能です。暗い場所でLCD表示を見ることができます。

【PTT】以外の操作キーを操作すると表示部が5秒間点灯します。

VOX機能

VOXとは、【PTT】を押すことなく、マイクロホンへの音声入力のみで送信できる機能です。

両手がふさがった状態で作業をしているときなど、【PTT】を押すことができない状況で使用します。

- VOX機能を動作させるには、下記のいずれかのマイクロホンもしくはヘッドセットが無線機に接続されている必要があります。

EMC-13/ EMC-14/ EMC-15/ EMC-16/ KHS-37/ KHS-55BT

1 【○】を押してメニューに入る

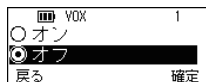
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。

2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「VOX設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す

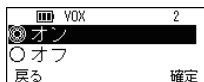
3 【▼】/【▲】で、設定項目「VOX」を表示させ、【○】を押す

VOX機能の設定値が表示されます。

4 【▼】/【▲】で、項目を選択する



【▲】
を押す




操作のしかた

5 【O】を押すと設定項目を確定する



表示


VOX 機能をオン時は、「」アイコンが表示されます。

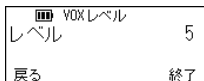


- ◆ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。（「オプション一覧」< VOX 対応>と記載されている製品《☞ p.54 を参照》）
- ◆ 本機内蔵のマイクロホンでは VOX 機能は動作しません。必ずヘッドセットまたはイヤホンマイクを接続してから VOX 機能を使用してください。
- ◆ イヤホン付きクリップマイクロホン、またはヘッドセットを接続し、さらに Bluetooth ヘッドセットも接続している場合は、Bluetooth ヘッドセットからの音声入力を優先して VOX 送信します。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ VOX 機能を使用しているときは【PTT】を離しても、VOX 遅延時間設定《☞ p.35 を参照》で設定している時間、送信を継続します。

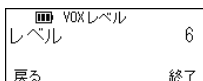
VOXレベル(マイク感度)設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

- 1 【O】を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「VOX設定」にカーソルを合わせ、【O】を押す
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「VOXレベル」を表示させ、【O】を押す
VOX レベルの設定値が表示されます。
- 4 マイクロホンに音声を入力しながら【▼】/【▲】を押してレベルを選択する
レベル1から10の間で1ステップごとに設定します。

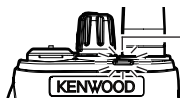


【▲】
を押す



5 無線機のLEDが黄色点灯するまでレベルを変更する

入力した音声 VOX 送信レベルに達すると LED が黄色点灯します。



LED が黄色点灯

- 6 **[O]**を押しVOXレベルを確定する
- 7 一度電源を切ってから、再度電源を入れる

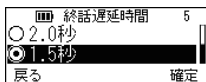


◆ VOXレベル(マイク感度)が高感度であるほど小さな音に反応し、VOX送信状態になります。そのため、周りの環境の背景ノイズに合わせ、適切なVOXレベル(マイク感度)を設定してください。

VOX遅延時間設定

VOX機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめたあと設定した時間は送信を継続するため音声途切れることを防ぐことができます。

- 1 **[O]**を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 **[▼]/[▲]**で、カテゴリーアイコンの「 VOX設定」にカーソルを合わせ、**[O]**を押し
- 3 **[▼]/[▲]**で、設定項目「終話遅延時間」を表示させ、**[O]**を押し
VOX遅延時間の設定値が表示されます。
- 4 **[▼]/[▲]**で、遅延時間を選択する
0.1秒から3.0秒の間で設定します。



[▲]
を押す

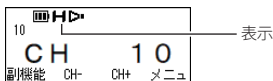


- 5 **[O]**を押し遅延時間を確定する
- 6 一度電源を切ってから、再度電源を入れる

送信出力切替機能

送信出力をハイパワー(5W)からローパワー(1W)に切り替えます。

- 1 **[サイド1]**を押し続ける
チャンネルごとに設定された送信出力が初期値のハイパワー(5W)から、ローパワー(1W)に切替わります。もう一度、**[サイド1]**を押し続けると、送信出力がハイパワー(5W)に戻ります。
●ハイパワー時は「**H**」が、ローパワー時は「**L**」アイコンが表示されます。



操作のしかた

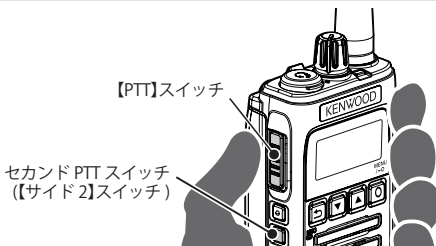
セカンド PTT チャンネル

通常の【PTT】スイッチを使って送信するチャンネルとは別に、セカンド PTT チャンネルを設定し【サイド 2】スイッチを使うことで、2 つ目のチャンネルで送信することができます。セカンド PTT チャンネルを設定すると通常のチャンネル とセカンド PTT チャンネルを交互にスキャンします。

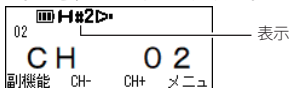
いずれかのチャンネルに受信信号がある場合はそのチャンネルにとどまり受信音声聞くことができます。



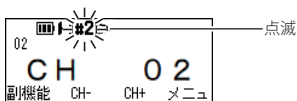
- ◆ 【サイド 2】スイッチ以外のキーにセカンド PTT チャンネル用の PTT を割り当てる場合はメモリーコントロールプログラム (MCP-10B) 《p.50 を参照）を使用して目的のキーに「セカンド PTT 機能」を割り当ててください。



- 1 セカンド PTT チャンネルを設定すると、「#2」アイコンが表示され、通常のチャンネルと、セカンド PTT チャンネルを交互にスキャンします。



- 2 セカンド PTT チャンネルが受信状態になると、「#2」アイコンが点滅しピーブ音が鳴って、受信したことを知らせます。



- 3 【サイド 2】を押すとセカンド PTT チャンネルに移動して送信します。
- 4 通常のチャンネルが受信状態になると、「#2」アイコンの表示が消えます。
- 5 通常のチャンネルで送信するときは【PTT】を押します。



- ◆ セカンド PTT チャンネルと通常のチャンネルが同じ場合、セカンドスキャンをおこなわないので、「#2」アイコンは表示しません。

無線機情報モード

無線機に書き込まれているファームウェアバージョンを表示させる機能です。
ラジオモードセレクションからも起動することができます。《☞ p.38 を参照》

1 無線機の電源を切る

2 【サイド1】を押しながら無線機の電源を入れる

無線機情報モードに入り、「VERSION INFO」と2秒間表示したあと、ファームウェアバージョンが表示されます。



【無線機情報モード起動画面】

【ファームウェアバージョン表示画面】

3 終了するには

無線機情報モードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

全初期化モード

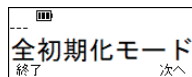
無線機の名設定を、購入時または前回 MCP-10B で書き込まれた設定値に戻すことができる機能です。

ラジオモードセレクションからも起動することができます。《☞ p.38 を参照》

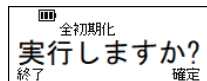
1 無線機の電源を切る

2 【サイド1】と【サイド2】を押しながら無線機の電源を入れる

全設定初期化モードに入ります。



3 【O】を押す



全初期化確認画面で、「実行しますか?」と表示されます。

4 【O】を押す

全設定初期化を実行し、無線機が再起動します。

【PTT】または【↵】を押すと、無線機は初期化されずに再起動します。

操作のしかた

SPPモード (TPZ-D563BTEのみ)

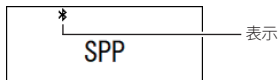
SPPモードとは、普段はBluetooth機能を使用していないが、MCP-10BがインストールされているPCと通信する際にBluetooth接続したい場合に使用します。

※ SPPとは、BluetoothのSerial Port Profileの略称です。

ラジオモードセレクションからも起動することができます。《☞下記を参照》

- 1 無線機の電源を切る
- 2 **【▲】**を押しながら無線機の電源を入れる

SPPモードに入り、画面に「SPP」と、アイコン「*」が表示されます。



SPPモード起動後は無線機側からの操作は不要です。

MCP-10BからSPP通信をおこなってください。詳細はMCP-10Bのユーザーズガイドをご参照下さい。

- 3 終了するには
SPPモードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

ラジオモードセレクション機能

ラジオモードセレクションは、各モードをリスト形式で表示する機能です。モードごとに用意されている起動手順を使用せず、各モードを選択できます。

ラジオモードセレクションの操作方法

- 1 無線機の電源を切る
- 2 **【↵】**を押しながら無線機の電源を入れる

ラジオモードセレクションに入り、機能リストが表示されます。



機能リストは下記のモードが表示されます。

- Transceiver Info : 無線機情報モード
- Expanded Menu : 拡張メニューモード
- All Reset : 全初期化モード
- SPP : SPPモード (TPZ-D563BTEのみ表示されます)

3 【▼】/【▲】で、モードを選択し、【○】を押す

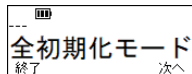


【▼】
を押す



【○】
を押す

ラジオモードセレクションを終了し、選択したモードに移行します。



4 途中で終了するには

モードを選択せずにラジオモードセレクションを終了するには、無線機の電源を切つてから、再度電源を入れます。

メニューモードについて

メニューモードはメニュー形式で機能を選択し、実行することができるモードです。2つのメニューモードがあり、普段使用する機能は、メニューモードを使用し、あまり使わない機能は拡張メニューモードを使用するなどの使い分けができます。



◆ 各メニューモードの機能設定一覧は、出荷時の設定です。

メニューモードへの入り方の操作方法

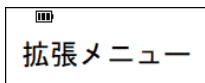
1 メニューモードは、【○】を押す

メニューモードに入り、カテゴリアイコンが表示されます。



拡張メニューモードは、【○】を押しながら電源を入れる

拡張メニューの起動画面を表示し、2秒経過または、いずれかのキーを押すとカテゴリアイコンが表示されます。



▶
2秒後



【拡張メニュー起動画面】

【カテゴリアイコン表示画面】

ラジオモードセレクションからも起動することができます。《p.38を参照》

操作のしかた

メニューモードの操作方法

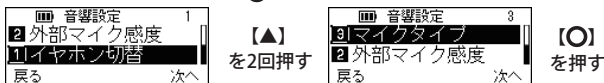
下記は拡張メニューモードの画面例です。

1 【▼】/【▲】で、カテゴリアイコンを選択し、【○】を押す



機能リストが表示されます。

2 【▼】/【▲】で、機能を選択し、【○】を押す



選択した機能の設定値が表示されます。

3 【▼】/【▲】で、設定値を選択し、【○】を押す



4 終了するには

メニューモードを終了するには、【←】を押すとチャンネル表示画面に戻ります。

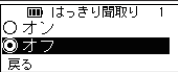
拡張メニューモードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

メニューモード機能一覧

下記の機能一覧については工場出荷時に設定されている機能について説明します。

メモリーコントロールプログラム MCP-10B(フリーソフト)を使用すると、メニューモードで操作できる機能の追加などができます。(☞ p.50 を参照)

はっきり聞き取り.....	41
ブルートゥース (TPZ-D563BTEのみ).....	41
BT 電池セーブ (TPZ-D563BTEのみ).....	41
BT 機器 (TPZ-D563BTEのみ).....	41
ペアリング待受 (TPZ-D563BTEのみ).....	41
BT オプション (TPZ-D563BTEのみ).....	42
BT 情報 (TPZ-D563BTEのみ).....	42
BT リセット (TPZ-D563BTEのみ).....	42
BT スピーカー (TPZ-D563BTEのみ).....	42
2nd PTT CH.....	42
UC 設定.....	42
上空 CH.....	43
秘話.....	43
VOX.....	43

機能項目表示		機能説明	
設定値	設定値説明	設定画面表示	
はつきり聞取り	はつきり聞取り機能を有効または無効にします。 この機能を有効にすると、受信した音声を独自のオーディオ特性に切り替えて、騒音下などでも聞き取りやすくすることができます。 《☞ p.31 を参照》		
	オフ	はつきり聞取り機能が停止します。	
オン	はつきり聞取り機能が起動します。		
Bluetooth	内蔵 Bluetooth 機能を有効または無効にします。《☞ p.25 を参照》 TPZ-D563BTEのみ		
		オフ	Bluetooth 機能が停止します。
オン	Bluetooth 機能が起動します。		
BT電池セーブ	接続しているワイヤレスヘッドセットの電池の消費を抑える機能です。この機能を有効にすると、通話時に頭切れが発生することがあります。送信時は一呼吸おいてから通話を開始してください。 TPZ-D563BTEのみ		
		オフ	BT 電池セーブ機能が停止します。
オン	BT 電池セーブ機能が起動します。		
BT機器	無線機に接続する Bluetooth 対応機器を検索して接続することができます。 TPZ-D563BTEのみ		
		登録済み機器	登録済みの Bluetooth 対応機器を表示します。 登録済みの Bluetooth 対応機器の接続や、登録削除したりできます。
BT 機器検索	Bluetooth 対応機器を検索します。		
ペアリング待受	Bluetooth 対応機器の検索に応答するための Bluetooth ペアリング待受モードに入ります。 TPZ-D563BTEのみ		
		ペアリング待受モード	Bluetooth 対応機器からの検索動作に応答すると、無線機は Bluetooth 対応機器に Bluetooth 機器名と Bluetooth 機器アドレスを最大 60 秒通知します。 無線機が Bluetooth 対応機器からの検索動作に応答できる時間を表示することができます。 ◆メモリーコントロールプログラム (MCP-10B) で「Bluetooth ペアリング待受け」を無効にして常時検索で発見できない状態にすることで、この機能を使用できます。手動で検索で発見できるようにしたい場合にこの機能を使用します。

操作のしかた

BTオプション (TPZ-D563BTEのみ)		Bluetooth HSP (Headset Profile) 接続を使用して無線機に接続する Bluetooth 対応機器 (ヘッドセット) の接続方式を設定することができます。	
ヘッドセット 1	KENWOOD 製 ワイヤレスヘッドセット KHS-55BT と接続する場合に使用してください。		
ヘッドセット 2	予備用 (使用しません。)		戻る 確定
BT情報 (TPZ-D563BTEのみ)		Bluetooth 情報モードに入ります。	
Bluetooth 情報モード	無線機に設定されている Bluetooth 機器名、Bluetooth 機器アドレス、デバイスクラスを確認することができます。		戻る
BTリセット (TPZ-D563BTEのみ)		Bluetooth の機能をリセットすることができます。この機能を使用すると、無線機の電源を切ることなく、Bluetooth の機能を正常な状態に戻すことができます。	
取消	メニューモードを終了し、待受け表示に戻ります。		
開始	Bluetooth 機能の設定内容をリセットします。		戻る 確定
BTスピーカー (TPZ-D563BTEのみ)		無線機とヘッドセットプロファイルで接続している Bluetooth 対応機器のスピーカーと、無線機の内部スピーカーとのあいだで音声の出力先を切り替えます。Bluetooth 対応機器と接続中の場合に切り替え可能となります。	
オフ	無線機の内部スピーカーに出力します。		
BTのみ	Bluetooth 対応機器のスピーカーに出力します。		戻る 確定
2nd PTT CH		通常の【PTT】スイッチを使って送信するチャンネルとは別に、セカンド PTT チャンネルを設定し【サイド 2】スイッチを使って送信する 2 つ目のチャンネルを使用することができます。 【サイド 2】スイッチを押したときに送信されるチャンネルを設定することができます。 セカンド PTT 機能の運用方法は p.36 を参照してください。	
なし	セカンド PTT 機能が停止します。		
チャンネル 1~ チャンネル 82	チャンネルを選択するとセカンド PTT 機能がオンになり、スキャンを開始します。		戻る 確定
UC設定		ユーザーコード通話とは、同じチャンネルを複数のユーザーが使用している場合、同じユーザーコードを設定している通話グループの音声だけを聞こえるようにするグループ通話方式です。(p.22 を参照)	
なし	ユーザーコードを使用しません。		
1~511	選択した番号がユーザーコードに設定されます。		戻る

上空CH	登録局に対する上空利用割当周波数 (351.10625 ~ 351.16250、351.16875 ~ 351.19375 MHz (6.25 kHz 間隔) の 15 波) の S1 ~ S15 チャンネルを受信できるようにする設定です。	
陸上	陸上チャンネル (CH01~CH82) の送受信ができます。	
陸上 + 上空	陸上チャンネルの送受信と、上空チャンネル (S1~S15) を受信できます。(受信専用です)	
秘話	デジタルでの音声通話に暗号化をおこない、秘匿性を高めた通話ができる機能です。秘話送信機能のオン/オフを設定します。《☞ p.23 を参照》	
オフ	秘話機能は動作しません。	
オン	秘話機能が動作します。	
VOX	VOX とは、【PTT】を押すことなく、マイクロホンへの音声入力のみで送信できる機能です。 両手がふさがった状態で作業をしているときなど、【PTT】を押すことができない状況で使用します。《☞ p.33 を参照》	
オフ	VOX 機能が停止します。	
オン	VOX 機能が動作します。	

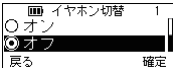
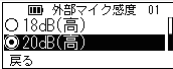
拡張メニューモード機能一覧

下記の機能一覧については工場出荷時に設定されている機能について説明します。
メモリーコントロールプログラム MCP-10B(フリーソフト)を使用すると、拡張メニューモードで操作できる機能の追加などができます。《☞ p.50 を参照》

イヤホン切替	44
外部マイク感度	44
マイクタイプ	45
内部マイク感度	45
受信音特性	45
受信音自動制御	45
送信音特性	46
送信音自動制御	46
はっきりレベル	46
電池セーブ	46
ブルートゥース (TPZ-D563BTEのみ)	41
BT 電池セーブ (TPZ-D563BTEのみ)	41
BT 機器 (TPZ-D563BTEのみ)	41
ペアリング待受 (TPZ-D563BTEのみ)	41
BT オプション (TPZ-D563BTEのみ)	42
BT 情報 (TPZ-D563BTEのみ)	42
BT リセット (TPZ-D563BTEのみ)	42

操作のしかた

PTT ホールド.....	47
2nd PTT BEEP.....	47
2nd SCAN TIME.....	47
縦倍角設定.....	47
シークスキャン.....	47
電源オン LED.....	48
通話開始トーン.....	48
終話トーン.....	48
キー操作音.....	48
送信お知らせ音.....	48
お知らせ音音色.....	48
一括秘話鍵.....	49
個別 ID.....	49
VOX レベル.....	49
終話遅延時間.....	49
全初期化モード.....	49

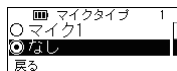
機能項目表示		機能説明	
設定値		選択肢説明	設定画面表示
イヤホン切替			
		<p>通常モノラルイヤホンを接続した場合は、無線機の【PTT】は使用できませんが、イヤホン切替をオンにすると、無線機の【PTT】を使用することができます。(モノラルイヤホンは弊社推奨製品を使用してください。)</p> <p>◆専用オプションや推奨モノラルイヤホン以外のプラグを挿入すると無線機、およびイヤホンを破損する場合がありますのでおやめください。</p> <p>◆専用オプション以外を接続している場合、端子部は防水にはなりません。</p> <p>◆推奨モノラルイヤホンについては弊社ウェブサイトをご覧ください。</p>	
オフ		専用オプションのイヤホンマイクロホンやヘッドセット、スピーカーマイクロホンを使用するときに設定します。	
オン		推奨モノラルイヤホンを使用するときに設定します。無線機本体の【PTT】が使用できます。	
外部マイク感度			
		スピーカーマイクロホン使用時など、外部マイクロホンの感度を変更することができます。2dB ステップごとに変更できます。	
20dB(高)~ 0dB(標準) ~-20dB(低)		マイナスの数字が大きくなるほど感度が低くなります。0dBは標準感度になります。数字が大きくなるほど感度が高くなります。	

マイクタイプ

無線機に接続する外部マイクロホンの種類を設定し、音質を最適な状態にすることができます。

◆無線機と Bluetooth ヘッドセットを接続した場合は、マイクタイプの設定は「なし」として動作します。外部マイクロホンの音質は調整されません。

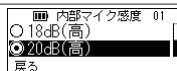
なし	オーディオ特性を補正しません。
マイク 1	EMC-13 を接続時に設定します。
マイク 2	EMC-14 を接続時に設定します。
マイク 3	EMC-15 を接続時に設定します。
マイク 4	KMC-55 を接続時に設定します。
マイク 5	KHS-37 を接続時に設定します。
マイク 6	SMC-35 を接続時に設定します。
マイク 7	EMC-16 を接続時に設定します。
マイク 8	SMC-36 を接続時に設定します。



内部マイク感度

内部マイクロホンの感度を変更することができます。2dB ステップごとに変更できます。

20dB(高)~ 0dB(標準) ~-20dB(低)	マイナスの数字が大きくなるほど感度が低くなります。0dB は標準感度になります。 数字が大きくなるほど感度が高くなります。
----------------------------------	--

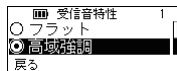


受信音特性

無線機を使用する環境や、相手側の使用環境や声質、マイクロホン、および外部接続機器などの特性により受信音質が変化します。この機能を使用すると、使用状況や好みに応じて受信音質を調整できます。

◆はっきり聞き取り機能が「オン」のときは、はっきりレベルの設定が優先されます。

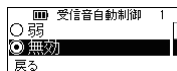
高域強調	音声の高域を強調し、明瞭で会話を確実に聞き取ることを重視した音質になります。
フラット	標準的な音質になります。
低域強調	音声の高域を抑え、低域を豊かにします。落ちついた自然な音質になります。



受信音自動制御

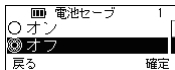
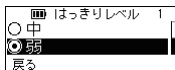
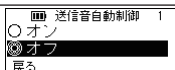
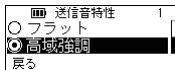
受信音量が現在の【電源/音量】の位置に応じて自動的に一定のレベルに調整されるため、送信側の入力レベルに強弱がある場合に音声聞き取りやすくなる効果があります。

無効	音量の自動調整をおこないません。
弱	現在の音量設定に合わせ、一定のレベルの音量に調整されます。
強	「弱」よりも効果が強くなります。ただし送信側の小さな音も大きくなり、ハウリングしやすくなるため、送信側が静かな環境のときに使用することをお勧めします。



操作のしかた

送信音特性	無線機を使用する環境や声質・マイクロホンおよび外部接続機器などの特性により送信音質が変化します。この機能を使用すると、使用状況や好みに応じて送信音質を調整できます。
高域強調	音声の高域を強調し、明瞭で会話を確実に聞き取ることを重視した音質になります。
フラット	標準的な音質になります。
低域強調	音声の高域を抑え、低域を豊かにします。落ちついた自然な音質になります。
送信音自動制御	送信する際の声の大きさや口元からマイクロホンまでの距離などによって、送信音量が大きく変わり、受信側で聞きづらくなってしまうことがあります。この機能を使用すると、マイクロホンの感度が自動的に調整されて、受信側での音声が届きやすくなる効果があります。
オフ	マイクロホンの感度を一定にします。
オン	マイクロホンの感度を自動的に調整します。
はっきりレベル	はっきり聞き取り機能の効果を設定することができます。はっきりレベルモードでは、はっきりレベルの設定を、「弱」、「中」、「強」のいずれかに変更することができます。
弱	独自のオーディオ特性に切り替えます。周囲雑音が小さいときに適しています。
中	独自のオーディオ特性に切り替え、さらに音量を3dB上げます。はっきりレベルが「弱」の設定より高い効果を得られます。
強	独自のオーディオ特性に切り替え、さらに音量を6dB上げます。周囲雑音が大きいときに適しています。
電池セーブ	無線機がスタンバイ状態のあいだに間欠的に信号の有無をモニターすることにより、電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。
オフ	電池セーブ機能は動作しません。
オン	電池セーブ機能が動作します。
eco	電池セーブ機能が動作します。 各チャンネルの送信出力がローパワーになり、ハイパワーへの切り替えはできません。 「オン」よりも「eco」のほうが電池セーブ状態に早く入れます。



◆ ブルートゥース / BT 電池セーブ / BT 機器 / ペアリング待受 / BT オプション / BT 情報 / BT リセットについては、《p.41 ~ p.42》を参照ください。

VOX 機能を使用せずにハンズフリーで運用する機能です。通常は送信するとき【PTT】を押し、離せば送信終了します。

本機能をオンに設定すると、【PTT】を一度押せば【PTT】を離しても送信が継続します。送信をやめるときはもう一度【PTT】を押します。

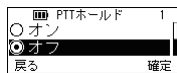
PTTホールド

◆PTT ホールドの設定は、Bluetooth ヘッドセットには適応されません。Bluetooth ヘッドセットに PTT ホールド動作の設定がある場合、Bluetooth ヘッドセット側で設定してご使用ください。対応する Bluetooth ヘッドセットは、<https://www.kenwood.com/jp/support/com/wireless-headset> をご参照ください。 (TPZ-D563BTEのみ)

オフ 【PTT】を押し、離すと送信が終了します。

オン 【PTT】を押すと押した状態が継続されます。

2 回押し 【PTT】を素早く2 回押しと押した状態が継続されます。

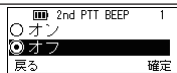


2nd PTT BEEP

セカンド PTT チャンネル送受信時に通常の選択チャンネルと区別するためビープ音を鳴らします。

オフ ビープ音を鳴らしません。

オン ビープ音を鳴らします。



2nd SCAN TIME

セカンド PTT スキャン停止後、受信信号がなくなってからスキャンを再開するまでの時間を設定します。

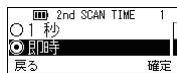
即時 即時にセカンド PTT スキャンを開始します。

1 秒 1 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。

2 秒 2 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。

5 秒 5 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。

10 秒 10 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。

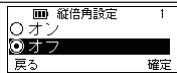


縦倍角設定

メニューの設定項目を縦倍角 (32X16) で大きく表示できます。

オフ 16 × 16 ドットの通常文字表示になります。

オン 32 × 16 ドットの縦倍角文字表示になります。

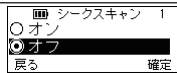


シークスキャン

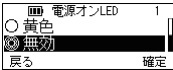

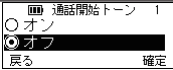
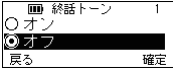
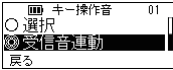
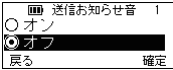
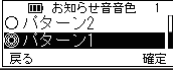
スキャン対象に設定されているチャンネルをスキャンし、スキャン停止と同時にスキャンを終了することができます。運用中のチャンネルを確認し、そのまま会話に参加する場合に使います。

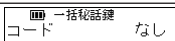

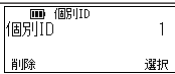
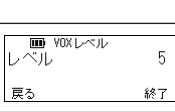
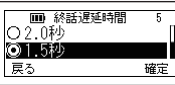
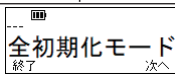
オフ シークスキャンを停止します。

オン シークスキャンを動作させます。



操作のしかた

電源オンLED	電源オン時に点灯するLEDの色を選択できます。使用者やグループを識別したいときに便利です。	
無効	電源オン時にLEDを点灯しません。	 <p>LEDの点灯色を選択できます。</p> 
黄色	電源オン時にLEDが黄色に約2秒間点灯します。	
紫色	電源オン時にLEDが紫色に約2秒間点灯します。	
青色	電源オン時にLEDが青色に約2秒間点灯します。	
水色	電源オン時にLEDが水色に約2秒間点灯します。	
赤色	電源オン時にLEDが赤色に約2秒間点灯します。	
緑色	電源オン時にLEDが緑色に約2秒間点灯します。	
白色	電源オン時にLEDが白色に約2秒間点灯します。	
通話開始トーン	【PTT】を押して送信したときに、通話が可能な状態になったことを送信者に音で知らせる機能です。通話の頭切れを防ぐために使用します。	
オフ	通話開始告知音を鳴らしません。	
オン	通話開始告知音を鳴らします。	
終話トーン	送信者が【PTT】を離して送信を終了したことを、受信者に知らせるための告知音です。送信者が送信を終了したことが音でわかるため、返事を返すタイミングがつかみやすくなります。	
オフ	終話告知音を鳴らしません。	
オン	終話告知音を鳴らします。	
キー操作音	キー操作音の音量を変更することができます。	
受信音連動	【電源/音量】の位置と連動して音量が変化します。	
選択	固定音量キーと連動して音量が変化します。	
オフ	キー操作音を鳴らしません。	
1~31	選択したレベルの一定音量になります。	
送信お知らせ音	受信者に通話の開始を音で知らせる機能です。 ◆送信者、受信者両方に音で知らせる機能です。 ◆送信お知らせ音をオンしているあいだは、通話開始トーンは鳴りません。	
オフ	送信お知らせ音を鳴らしません。	
オン	送信お知らせ音を鳴らします。	
お知らせ音音色	送信お知らせ音の音色を選択します。	
パターン1~6	6種類の音色から選択します。	

一括秘話鍵	秘話鍵コードを設定します。秘話機能のオン/オフはメニューの「秘話」で設定します。《☞ p.43 を参照》	
なし	秘話鍵コードが設定されません。	
1 ~ 32767	選択した秘話鍵コードが設定されます。	
個別ID	無線機の個別 ID を設定することができます。	
1 ~ 65519	設定した個別 ID コードが登録されます。	
VOXレベル	VOX 機能を使用するためのマイクロホンの音声入力感度を設定します。《☞ p.34 を参照》	
1 ~ 10	音声の大きさや周辺の雑音の状況に応じて、マイクロホンに向かって話すときに、VOX 機能が確実に動作するように調整します。話しても動作しないときは、数値を徐々に大きくします。	
終話遅延時間	VOX 送信しているとき、マイクロホンからの音声入力が無くなったあとに、送信状態を一定時間保持する機能です。	
0.1 秒 / 0.3 秒 / 0.5 秒 / 1.0 秒 / 1.5 秒 / 2.0 秒 / 3.0 秒	本機能により、音声入力途切れて VOX が動作するマイク感度に達しなくても送信が一定時間保持され、VOX 送信が途切れることを防止することができます。《☞ p.35 を参照》	
	VOX 送信中に音声入力が無くなったあと、0.1 秒から、3.0 秒まで選択した時間のなかで VOX 動作するマイク感度に達する音声入力があると VOX 送信が継続します。	
全初期化モード	全設定を初期化すると、設定されている内容はすべて購入時または前回 MCP-10B で書き込まれた設定値の状態に戻ります。《☞ p.37 を参照》	
全初期化	全設定初期化モードに入ります。	

その他

MCP-10B について

メモリーコントロールプログラム (MCP-10B) を使用すると、無線機と PC を接続し、無線機の設定情報を読み込んで表示したり、MCP-10B で設定した情報を無線機に書き込むことで、メニューモードおよび拡張メニューモードで操作できる設定項目を追加したり、詳細な設定をすることができます。詳細な内容は MCP-10B のユーザーズガイドをご覧ください。

基本フロー

MCP-10B を PC にインストールする

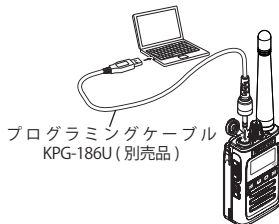
無線機と PC を接続する

無線機の設定データを読み込む

各種機能のパラメータを設定する

設定データを無線機に書き込む

【無線機と PC を接続する】



◆ MCP-10B を使用するにはプログラミングケーブル KPG-186U (別売品) で PC と無線機を接続してください。TPZ-D563BTE では、Bluetooth SPP (Serial Port Profile) を使用して PC と接続することもできます。

MCP-10Bを使ってできること

- 自分好みの無線機に設定することができます。
詳しくは MCP-10B をインストールすることで確認できます。
(課金なし)
- メニュー/拡張メニュー項目を追加できます。
各メニューモードで設定する項目を追加できます。
- チャンネルごとに機能を設定できます。
・チャンネル名 ・秘話機能の設定 ・送信出力など
- 選択呼出機能を追加できます。
音声通話による個別呼出やグループ呼出などの選択呼出を設定することができます。
- 音声アナウンス機能を設定できます。
チャンネルを変更したときに、音声でチャンネル番号をアナウンスします。表示を見なくてもチャンネル番号を確認できるように設定できます。



- **自局 ID 名送信 (呼出用チャンネル) を設定できます。**
チャンネル番号 15 呼出用チャンネルで自局 ID 名を送信する機能を設定できます。
- **キー動作機能を変更できます。**
無線機の前面および側面の操作キーそれぞれに機能を割り当てることができます。また、短く押す、長く押すことで1つのキーに複数の機能を設定したり、使わない機能を削除したりすることもできます。



MCP-10B は弊社ウェブサイトからダウンロードしてください。
<https://www.kenwood.com/jp/products/communications/hpdt/mcp10b.html>

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない。	電池の容量が低下している。	バッテリーパックを充電する。	p.12
		バッテリーパックを交換する。	p.11
通話ができない。 【電源/音量】を回しても音が出ない。	相手局とチャンネル設定が違っている。	同じチャンネル設定にする。	p.20
	相手局と音声圧縮 (符号化) の方式が違っている。	本機と同じ AMBE 方式の無線機と交信する。	p.9
	相手局とユーザーコード (UC) が違っている。	同じユーザーコード (UC) にする。	p.22
	相手局と秘話設定が異なる。	相手局の秘話設定と合わせる。	p.23
	他のグループが同じチャンネル番号を使用している。	他のチャンネルに変更する。	—
	相手との距離が離れすぎている。	通信のできる距離を目安に通信する。	p.7
	グループ番号が違っている。	送信側/受信側ともにグループ番号を合わせる。	—

その他

症状	原因	処置	参照ページ
送信ができない。	現在のチャンネルで受信信号があるため、キャリアアセス（混信防止機能）が働いている。	チャンネルを変更するか、LEDの緑点灯が消えるのを待つ。	p.21
	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続が外れている。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続を確認する。	p.13
	通話時間の制限が働いている。	5分間の連続送信により自動的に送信が停止した場合は、1分以上待つ。	p.21
秘話設定やユーザーコード設定ができない。	呼出用チャンネル(CH15)になっている。	CH 1~CH 14、CH 16~CH 82を使用する。	p.21
チャンネルが切り替わらない。	キーロックになっている。	キーロックを解除する。	p.32
「接続異常」が表示される。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続が外れている。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続を確認する。	p.14
オートチャンネルセレクトが動作しない。	ユーザーコードが設定されていない。	送信側/受信側ともに同じユーザーコードを設定する。	p.22
Bluetooth 接続できない。	接続する Bluetooth 機器の電源が入っていない。	Bluetooth 接続する機器の電源を入れる。	p.25
	Bluetooth 機能の設定が「オン」になっていない。	Bluetooth 機能の設定を「オン」にする。	p.25
	接続したい Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器を接続している。	接続したい Bluetooth 機器だけを電源オンにする。	p.25

TPZ-D563BTEのみ

保証とアフターサービス (よくお読みください)

保証書 (別添)

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのと、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より **2年間** です。

修理を依頼されるときは

「故障かな? と思ったら」で解決できる場合があります。《p.51 を参照ください》

それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合、設定された項目がリセットされる場合がありますので、別途お客様ご自身でお控えくださいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因 (衝撃や水分、異物の混入など) による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償にて修理いたします。

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

修理料金の仕組み (有償修理の場合は下記の料金が必要です。)

技術料 : 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業に掛かる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。

部品代 : 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。

送料 : 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などをおこなうにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

その他

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

KNB-75LA	リチウムイオンバッテリー (1820mAh)
KNB-76L	リチウムイオンバッテリー (2200mAh)
KSC-47L	急速充電器 (連結非対応)
KSC-49LCR	連結充電台
KSC-45LSL	KSC-49LCR 連結充電台用 AC アダプター
KSC-256A	6 連急速充電器
KBH-20	ベルトフック
KBH-21	ベルトフック
KMC-55	スピーカーマイクロホン
SMC-35	スピーカーマイクロホン
SMC-36	スピーカーマイクロホン
EMC-13	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-14	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-15	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-16	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
KHS-37	ヘッドセット (耳掛けタイプ) < VOX 対応 >
KHS-55BT	ワイヤレスヘッドセット < VOX 対応 > (TPZ-D5638TEのみ)
KEP-6	イヤホン (φ 2.5)
HS-9(G)	プチホン型イヤホン (φ 2.5)
KPG-186U	プログラミングケーブル
KBP-9	バッテリーケース
KLH-203	ハードケース
KLH-210	ハードケース
KSB-1	ショルダーベルト
MCP-10B	メモリーコントロールプログラム

(フリーソフトウェア：弊社ウェブサイトよりダウンロードできます。)



- ◆ バッテリーケース KBP-9 使用時の送信出力はローパワー (1W) になります。
- ◆ 本機に使用できるオプションについては、追加されたり、生産が終了したりすることがあります。最新の情報についてはカタログなどをご覧ください。
- ◆ VOX 対応のオプションを使用時は、マイク部分を口元に近づけたりマイク感度を調整してお使いください。

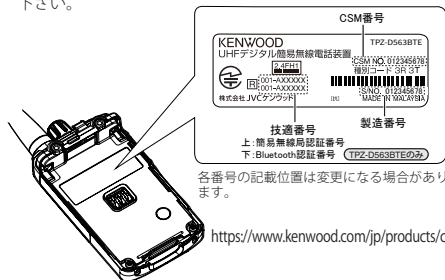
仕様

機種名	TPZ-D563E/TPZ-D563BTE
用途	簡易無線 登録局
周波数範囲	許可された 351 MHz 帯
チャンネル数	82ch (陸上・海上用) 15ch (上空用受信専用)
電波型式	F1C/F1D/F1E/F1F
変調方式	4 値 FSK (デジタル)
送信出力	5 W/1 W
電源電圧	DC7.4V ± 10%
内蔵スピーカー出力	700 mW (10% 歪)
使用温度範囲	-20°C ~ +60°C
外形寸法 (突起物含まず)	幅: 56 x 高さ: 92 x 奥行: 28.4 mm (KNB-75LA 使用時) 幅: 56 x 高さ: 92 x 奥行: 31.8 mm (KNB-76L 使用時)
質量 アンテナ、ベルトフック、 バッテリー含む	約 247 g (KNB-75LA 使用時) 約 276 g (KNB-76L 使用時)
アンテナ端子	SMA-J
防塵・防水性能	IP54/ IP55/ IP67/ IP68



- ◆ 仕様は予告なく変更することがあります。
- ◆ 本機は種別コード 3R 3T のデジタル無線機です。種別コード 3R の無線機とは互換性があります。

- 申請および届出の各種手続きについては、下記 URL、または QR コードから弊社ウェブサイトの「無線局の登録申請について」のページをご覧ください、登録申請してください。
- 簡易無線局の申請には、下図の技適番号での上側の「簡易無線局認証番号」を記入して下さい。





<https://www.kenwood.com/jp/products/communications/hpdt/touroku.html>

電波法に関するご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計認証を取得した、デジタル簡易無線電話装置です。本機を分解・改造して使用すること、また本機裏面の工事設計認証ラベルをはがして使用することは、電波法により禁止されています。
- 本機では、付属のアンテナ以外に技術基準適合証明等で認証を受けたアンテナもご使用いただけます。技術基準適合証明等で認証を受けたアンテナについては、弊社ウェブサイトをご覧ください。また、または JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
- 登録状の範囲を超えた運用は電波法違反となりますのでご注意ください。
- 他人の通話を聞いて、その内容を漏らすこと、または窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線局の登録（包括登録の場合には開設の届出）をおこなうと、総務省より電波利用料の納入告知書が送付されて来ますので、納付期限内に電波利用料を納付してください。
- 登録局の有効期間は、登録の日から5年間です。再登録の申請は、登録の有効期間満了の3か月前から1か月前までの期間内に手続きをおこなってください。
再登録をおこなわずに本機を使用しますと、「電波法第110条」により、「1年以下の懲役又は百万円以下の罰金」に処せられます。十分ご注意ください。
- その他、必要に応じて下記の手続きをおこなってください。
 - ・ 登録状の記載事項に変更が生じる場合（変更登録）
 - ・ 登録状が破れたり、汚れたり、紛失した場合（再交付申請）
 - ・ 登録した無線機を廃止する場合（廃止届出）
 - ・ 友人などに登録した無線機を貸出した場合（無線局の運用の特例に係る届出）

JVCケンウッドカスタマーサポートセンター

固定電話からは、フリーダイヤル		0120-2727-87
携帯電話からは、ナビダイヤル		0570-010-114
一部の IP 電話など、フリーダイヤル、ナビダイヤルがご利用になれない場合は		045-450-8950
FAX を送信される場合は		045-450-2308

住所	〒 221-0022	神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12
受付日	月曜日～土曜日	（祝祭日および、弊社休日を除く）
受付時間	月～金曜日	9：30～18：00
	土曜日	9：30～12：00、13：00～17：30

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
- 修理などアフターサービスについては、下記 URL の弊社ウェブサイトをご覧ください。JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

<https://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

© 2023 JVCKENWOOD Corporation